

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

## Examined Japanese Utility Model Application Publication

JP, 03-022042, Y(1991)

	Publication number:	1985(S60)-134853
	Date of Publication of application:	September 9, 1988
Int. CI	B 60 R 1/12	
	B 60 Q 1/34	
	B 60 R 1/06	
Application number:	S62-27305	Applicant: KANTO AUTOMOBILE INDUSTRY K.K.
Date of filing:	February 27, 1987	Inventor: TOMOKA KIMURA
Examined application publication number:	03-022042, Y2	
Date of Publication of examined application:	May 14, 1991	
Date of registration:	April 7, 1992	
Registration number:	1897632	

---

### CLAIMS

---

[Claim(s)]

[Claim 1] An automobile door mirror comprising: a housing that has an opening window facing frontward is fixed to a mounting portion formed on the side door, and; a rear monitoring mirror and a front monitoring mirror attached to said housing wherein an opening window is formed in the rear surface of said housing in correspondence to said front monitoring mirror.

---

### DESCRIPTION OF DRAWINGS

---

[Brief Description of the Drawings]

[Drawing 1] It is a drawing that shows cross sectional view of a door mirror according to an embodiment of present utility model application.

[Drawing 2] It is a schematic that shows a range of an illumination by an traffic indicator installed in the embodiment.

[Brief Explanation of the Drawings]

- 1: Case
- 2: Mirror
- 3: Lamp House
- 6: Lamp

# 公開実用 昭和63- 134853

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭63-134853

⑪ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)9月5日

B 60 R 1/12  
B 60 Q 1/34  
B 60 R 1/06

A-7443-3D  
B-8112-3K  
D-7443-3D

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 車両のドアミラー

⑮ 実 願 昭62-27305

⑯ 出 願 昭62(1987)2月27日

⑰ 考 案 者 木 村 朋 香 神奈川県横須賀市田浦港町無番地 関東自動車工業株式会  
社内

⑱ 出 願 人 関東自動車工業株式会 神奈川県横須賀市田浦港町無番地  
社

⑲ 代 理 人 弁理士 福留 正治

## 明 細 書

### 1. 考案の名称 車両のドアミラー

### 2. 実用新案登録請求の範囲

ドアミラーに、その内側端部からミラー面に向けて斜目方向に光照射する方向指示灯を付属させたことを特徴とする車両のドアミラー。

### 3. 考案の詳細な説明

#### (産業上の利用分野)

本考案は、方向指示灯を併設された車両のドアミラーに関するものである。

#### (従来技術と考案が解決しようとする問題点)

このようなウィンカ付きドアミラーとしては、ドアミラーの外側端部にランプを取付けたのが周知であるが、その分だけ突出幅が増え、寸法を抑制使用とすれば自ずと発光面積が小さくなり、視認性が制約される。また、発光層を同様に車室外側端部に形成したのも周知であるが、スペース上の問題は改善されるにしても、後方からの視認性に問題があった。

よって、本考案は、横幅を増大させることなく、良好な視認性が得られるウィンカ付きドアミラーを提供することを目的とする。

（問題点を解決するための手段と作用）

本考案は、この目的を達成するために、ドアミラーに、その内側端部からミラー面に向けて斜目方向に光照射する方向指示灯を配置することにより、ミラー面を点滅光の反射面としても利用するようにした。

（考案の実施例）

第1図は本考案の一実施例を示すもので、1は開口部1aの奥にミラー2を備えたドアミラーのケースである。このケースの内側端部には、ボデー後方に向けて突出したランプ収納室3が形成されている。この収納室には、ミラー2の内側半分を向いた開口部を形成されてレンズ4が取付けられ、その後方には反射板5が取付けられ、これらの間にランプ6が収納されている。ミラー2の幅は従来の幅Wよりも内側に延びることにより、点滅光をボデー側面に至近して沿った部分にも反



射させるようにしている。

ランプ 6 には、キルスイッチを介して点滅駆動  
入力を供給させても良い。

方向指示操作を行うと、第 1 図に示すように、  
ランプ 6 からミラー 2 の主として内側半分に点滅  
光が照射され、その反射により第 2 図のハッチン  
グで示す照射領域が得られる。したがって、広い  
光源面から側行車や後続車に対して十分な視認性  
を保證する領域に有効に光照射が行われる。ドラ  
イバからはランプ 6 がランプ収納室 3 でカバーさ  
れ、また反射光も運転席に入射しないために、眩  
しくなくなる。

尚、本考案は、ミラーケースがモーターにより  
ボデーに対して直交位置から平行位置に移動する  
形式のドアミラーについても適用可能である。こ  
の場合に、ランプは同様にケースに収納したり、  
或はミラーより僅かに後方のボデー自体に取付け  
ることも考えられる。

(考案の効果)

以上、本考案のドアミラーによれば、ミラー

ケースの横幅を増加させる必要がなく、また広い発光面が得られるためにランプ及びミラー面の位置関係を基にボデーに沿った部分から側方へ安全性を保證できる視認領域が形成される。ドライバにとって、ランプ自体及び反射光が見えないために眩しくなくなる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例によるドアミラーの断面図及び第2図はその方向指示灯の点滅光の照射領域を示す図である。

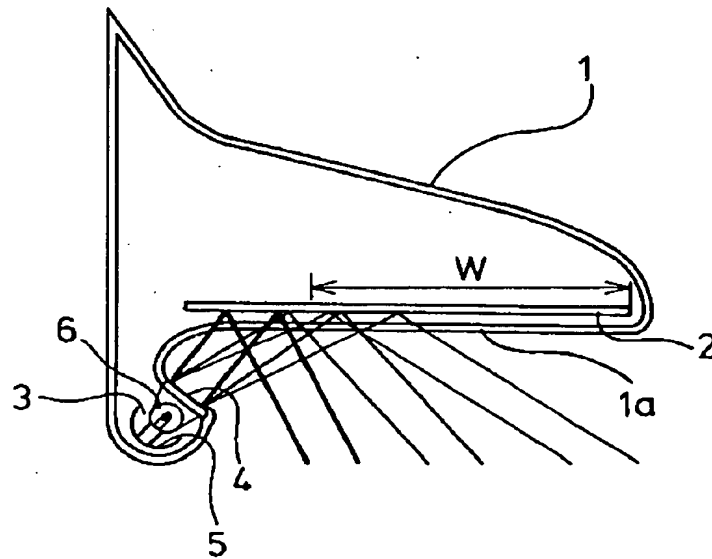
1 … ケース      2 … ミラー

3 … ランプ収納室      6 … ランプ

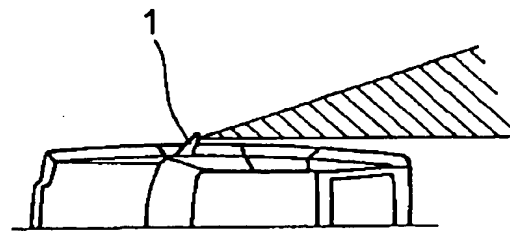
代理人      福 留 正 治



第 1 図



第 2 図



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2)

平3-22042

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

B 60 R 1/12  
B 60 Q 1/34  
B 60 R 1/06

識別記号

A  
B  
D

庁内整理番号

7812-3D  
6908-3K  
7812-3D

⑭ 公告 平成3年(1991)5月14日

(全2頁)

⑮ 考案の名称 車両のドアミラー

⑯ 実 願 昭62-27305

⑰ 公 開 昭63-134853

⑱ 出 願 昭62(1987)2月27日

⑲ 昭63(1988)9月5日

⑳ 考 案 者 木 村 朋 香 神奈川県横須賀市田浦港町無番地 関東自動車工業株式会  
社内

㉑ 出 願 人 関東自動車工業株式会 神奈川県横須賀市田浦港町無番地  
社

㉒ 代 理 人 弁理士 福留 正治  
審 査 官 深 澤 幹 朗

1

2

㉓ 実用新案登録請求の範囲

ドアミラーに、その内側端部からミラー面に向けて斜目方向に光照射する方向指示灯を付属させたことを特徴とする車両のドアミラー。

考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、方向指示灯を併設された車両のドアミラーに関するものである。

〔従来の技術と考案が解決しようとする問題点〕

このようなウインカ付きドアミラーとしては、ドアミラーの外側端部にランプを取付けたのが周知であるが、その分だけ突出幅が増え、寸法を抑制使用とすれば自ずと発光面積が小さくなり、視認性が制約される。また、発光層を同様に車室外側端部に形成したのも周知であるが、スペース上の問題は改善されるにしても、後方からの視認性に問題があった。

よつて、本考案は、横幅を増大させることなく、良好な視認性が得られるウインカ付きドアミラーを提供することを目的とする。

〔問題点を解決するための手段と作用〕

本考案は、この目的を達成するために、ドアミラーに、その内側端部からミラー面に向けて斜目方向に光照射する方向指示灯を配置することにより、ミラー面を点滅光の反射面としても利用するようにした。

〔考案の実施例〕

第1図は本考案の一実施例を示すもので、1は開口部1aの奥にミラー2を備えたドアミラーのケースである。このケースの内側端部には、ボデー後方に向けて突出したランプ収納室3が形成されている。この収納室には、ミラー2の内側半分を向いた開口部を形成されてレンズ4が取付けられ、その後方には反射板5が取付けられ、これらの間にランプ6が収納されている。ミラー2の幅は従来の幅Wよりも内側に延びることにより、点滅光をボデー側面に至近して沿った部分にも反射させるようにしている。

ランプ6には、キルスイッチを介して点滅駆動入力进行供給させても良い。

方向指示操作を行うと、第1図に示すように、ランプ6からミラー2の主として内側半分に点滅光が照射され、その反射により第2図のハッチングで示す照射領域が得られる。したがつて、広い光源面から側行車や後続車に対して十分な視認性を保証する領域に有効に光照射が行われる。ドライバからはランプ6がランプ収納室3でカバーされ、また反射光も運転席に入射しないために、眩しくなくなる。

尚、本考案は、ミラーケースがモーターによりボデーに対して直交位置から平行位置に移動する形式のドアミラーについても適用可能である。こ

3

4

の場合に、ランプは同様にケースに収納したり、或はミラーより僅かに後方のボデー自体に取付けることも考えられる。

〔考案の効果〕

以上、本考案のドアミラーによれば、ミラーケースの横幅を増加させる必要がなく、また広い発光面が得られるためにランプ及びミラー面の位置関係を基にボデーに沿った部分から側方へ安全性を保證できる視認領域が形成される。ドライバに

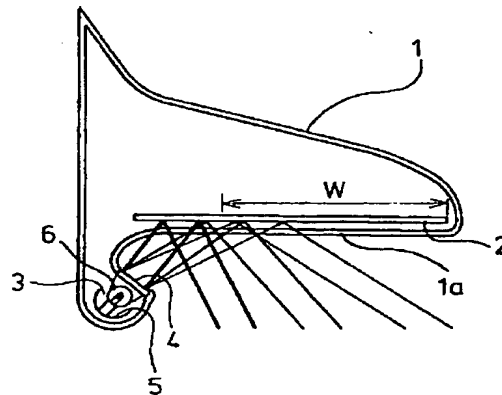
とつて、ランプ自体及び反射光が見えないために眩しくなくなる。

図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例によるドアミラーの断面図及び第2図はその方向指示灯の点滅光の照射領域を示す図である。

1……ケース、2……ミラー、3……ランプ収納室、6……ランプ。

第 1 図



第 2 図

